

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

| | | | |
|------|-------------------|----|----|
| 所属 | 文学部 | 身分 | 教授 |
| 氏名 | 兼武 道子 | | |
| NAME | KANETAKE, MICHIKO | | |

1. 研究課題

（和文）古代ギリシア文明の英国における受容

（英文）The Reception of Ancient Greek Civilisation in Britain

2. 研究期間

1 年間（2018 年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

（和文）

18世紀イギリスにおける古典修辞学の研究を通じて、古代ギリシア文明が18世紀以降のイギリスでどのように受容されてきたかということに研究の関心が広がってきた。2018年度は、①18世紀イギリスのヒュー・ブレアの修辞学理論が声と文字の問題について現代思想と接点を持っているということについて研究を継続した。これに加えて、②新たに広がってきた関心の分野において研究を発展させた。19世紀イギリスがヴィクトリアン・ヘレニズムというイデオロギーを生み、その中で先進的民主主義帝国としてのイギリスという自己像を古典期アテネに投影して重ね合わせていたことについて知識を深め、フェミニズムの立場から考察を行った。特に、20世紀女性小説家ヴァージニア・ウルフの『ジェイコブの部屋』をウルフのギリシア旅行日記と併せて読解・解釈し、大英帝国を担うエリートとしての主人公ジェイコブのギリシア理解が一面的で自己愛的なレベルに止まっていることをウルフが描いているということを読み取り、論文として発表した。書籍『ノンフィクションの英米文学』に収められている。そのほか、18・19世紀女性詩人についても研究を継続した。古典ギリシア語を習得し、ギリシア悲劇の翻訳家として知られるオーガスタ・ウェブスターの「キルケー」について人文研で発表を行い、ギリシア神話の登場人物をウェブスターが解釈しなおし、19世紀のリアルな女性として造形したことを述べた。

（英文）

In the academic year 2018-2019, I continued my research on the reception of Ancient Greek civilisation in Britain. I continued my research on the rhetorical theory of Hugh Blair, which I plan to further in the next academic year. In addition, I studied about the ideology of Victorian Hellenism from a feminist point of view. I wrote a paper on Virginia Woolf's *Jacob's Room*, which is an ironic exploration of this ideology in the form of a biography. I compared this novel with Woolf's travel diary in Greece, and came to a conclusion that Woolf contrasted Jacob's Greek experience with her own and showed how Victorian Hellenism created a distorted and false image of Greece and imposed it on people, thereby hindering an actual and living appreciation of Greece and its ancient culture.